令和6年度実施 大網白里市住民協働事業 成果報告書

事業名	地域情報サイトの運用と活用による地域コミュニティ活性化事業	
事業主体	実施団体	市（関係課）
	地域情報デジタル化普及実行委員会	地域づくり課

事業費	予算額	決算見込額	市補助金額（交付確定額）
	177,610 円	154,088 円	143,000 円

【 ①目的・課題について 】

次の事項がわかるように、事業概要を記入してください。

○どのような地域課題（行政課題）、住民ニーズに対して、

○いつ ○どこで ○誰を対象に ○どんなことを ○どのような方法で実施したか。

今年度はデジタル化出来ていない地区への対応とWeb増穂の掲載内容の充実、および高齢者向けスマートフォン教室の充実などをめざして活動を行った。

デジタル化の対応としては、区長会等の集会において地域コミュニティの活性化のためのデジタル化について説明し参加を促したが、なかなか同意を得るまで至らず対応が遅れている。

一方、Web増穂に掲載済の自治会から、サイトリニューアルのオファーが2月にあったため、CMSを導入したサイトを提供することで対応、現在コンテンツを入力して制作中である。

このほか、デジタル化の対応としてもう一点、増穂地区の四季の情報を掲載するためのサイトについてもCMSで作成し、現在制作中である。

もう一つの目玉である高齢者向けスマートフォン教室は、下期の11月から12月にかけて教育用のコンテンツと機材の準備を始め、防災情報の取得を中心にアプリの設定やスマートフォンの使い方を説明する内容のコンテンツを完成させた。

続いて、教室開催に向け、1月より柿餅区から募集を始め、その他の組織へ声掛けをするなど参加者を募集したところ少数（2名）であったことから開催を延期することとし、改めて募集・調整を図りたいと考えている。

【 ◎企画・効果 】

次の事項がわかるように、成果を記入してください。

- 事業の内容が具体的で目標達成に向けて適切だったか。
- 協働で行うことでどのような効果が得られたか。
- 住民の満足度は得られたか。 ○他の団体との連携や協力により効果をあげたか。
- 事業を行うことで、市民や地域、他の団体への波及効果（広がり）はあったか。

Web 増穂の内容を拡充したものの、デジタル化対象地区の拡大には至らず、また、スマートフォン教室の開催についても準備完了段階であるため、現時点では、地域の活性化という観点での目に見える成果はない。

ただ、事業を続けている中で一部自治会からデジタル化の本格運用の相談もあるため、これらのニーズを足がかりに事業の更なる拡充・拡大を目指したい。

協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
☐ 効果があった ☐ 概ね効果があった ☒ あまり効果はなかった。 (理由) 当初計画から進捗が大幅に遅れてしまったため、現時点における大きな効果は期待できない。	☐ 効果があった ☒ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 (理由) Web 増穂の内容拡充により一部地区ではデジタル化本格運用の検討がされている。また、スマートフォン教室も体制が整い希望者も出始めていることから、今後の周知活動等による更なる発展が期待できる。

【 ③実行力 】

団体と市の役割分担について、実際に担った役割を記入してください。

団体の役割	市（関係課）の役割
対象フィールドに対する実行	市広報を活用した事業周知

また、その役割分担は適正であったかについて、自己評価（）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
☐ 適正であった ☒ 概ね適正であった ☐ あまり適正でなかった (理由)	☐ 適正であった ☒ 概ね適正であった ☐ あまり適正でなかった (理由)

事業スケジュールについて、当初の計画と実際に実施した内容（実績）を詳細に記入してください。

当初の計画	実 績
<p>1. デジタル化を進めて21の自治会の情報の掲載を行い最終的には増穂地区へ移住する方々への教科書となるような冊子を制作する。</p> <p>2. スマートフォンを高齢者へ普及させて防災や日常生活へのアシストを目的としたスマートフォン教室を開催する。</p>	<p>1. デジタル化は緩やかに進んでいるものの、未だ最終的な成果を期待できるまで至っていない。</p> <p>2. スマートフォン教室の体勢が整い、今後、更なる周知活動により希望者を増やし、教室を開催することにより多くの住民へスマートフォンやアプリについて普及させたい。</p>

また、当初の計画と実績をみて、事業スケジュールの組み立ては妥当であったかについて、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体

- 適正であった
- 概ね適正であった
- あまり適正でなかった

(理由)

当初計画と比較すると大幅に遅れており、あまり進んでいない状況と考えている。

【 ④継続性 】

住民協働事業により「人・もの・情報・スキル」等、団体の活動基盤が強化した点や活性化した点について記入してください。

(例：〇〇を購入したことにより〇〇のスキルが上がり、効率的に活動できた。〇〇活動により団体の認知度が高まり、参加者が増えるとともに会員も増えた。)

また、2年目、3年目の事業については、1年前、2年前と比べて、事業を継続したことで得られた効果も記入してください。

サイトリニューアルのオファーがあったことから地元地区における認知度が少しずつ上がっている。また、他の地区においても認知され始めていることから、今後、幅を広げて活動していきたいと考えている。

また、その結果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体

- 強化、活性化した
- 概ね強化、活性化した
- あまり強化、活性化しなかった

(理由)

思うように時間がとれず活性化したとは言いがたいが、前記のとおり少しずつ広がりを見せているため、今後の発展を期待し、活動を継続したいと考えている。

【 ⑥必要性 】

団体と市が協働することで、行政サービスの充実・効率化等につながったか、協働による効果について記入してください。また、協働事業として実施し、良かった点や問題点等について記入してください。

今年度は思うように進展させることができなかったが、日常の身の回りの情報のデジタル化は今後の市民生活に多大な影響を与えていると考えている。近年DXなどと言われるデジタル化がもたらす様々な生活の利便性や教育、知識の蓄積など、多くの点でデジタル技術が将来の人の生活や考え方、生き方を変えていくと思われるが、そんな時代をよりよく過ごせるようにしたい。

また、その協働による効果について、自己評価（☑）をしてください。自己評価の理由もあれば記入してください。

団 体	市（関係課）
<p> ☐ 効果があった ☐ 概ね効果があった ☒ あまり効果はなかった。 （理由） 協働事業として実施するにあたって、市との役割分担をもう少し吟味して明確すべきであった。 </p>	<p> ☐ 効果があった ☒ 概ね効果があった ☐ あまり効果はなかった。 （理由） 地域活性化に向け、市では実施しがたい地元地区の方々への地域情報の提供ができた。 </p>